広報 かじき

全ご家庭に、もれなく配布

第185号

46.7.1発行

発行　鹿児島県姶良郡加治木町役場

編集　総務課文書係

印刷　吉屋印刷所

夏に入る

梅雨あけの　風さわやかに
空青く　牧笛郎

▽…「良識の府」参議院議員の選挙も六四・二二パーセントの投票率をのこして終りました。さて梅雨が明けると強い日射しが照りつけ、夏はいよいよ本格的になります。

▽…中旬を過ぎると高温多湿でからだにこたえ、つい食欲もおとろえがち。夏の暑いときこそ、からだに抵抗力をつける栄養食をとらなくてはなりません。夏まけを防ぐために、ぜひ毎日の食事に気を配ることが大切です。

▽…もうすぐ学校の夏休み。親子ともども気をひきしめて、事故のない夏をぜひ過ごしたいもの。

正しい泳ぎで、楽しい夏休みを（柁城小プールで）

■ メ　モ　人口…18.601　男…8.668　女…9.933　世帯…5.766　(6月1日現在) ■

永年勤続の先生など
二百六十人が受彰
昭和四十五年度 町総合表彰式

昭和四十五年度の町総合表彰式は、さる五月二十五日町福祉センターで行なわれました。

今回の表彰式では、昭和十年から三十六年間、加治木町で教べんをとり、このほど停年退職された加治木中の豊平正弘先生や町道拡張のため、用地を無償で町に提供した東輝さんなど個人、団体（代表）を含めた二百六十人が表彰されました。

町道に用地を無償提供した東さんら4人

おもな受賞者をご紹介します。

■…永年にわたり、本町の教育の振興に貢献
岡山秀樹＝錦江小や加治木中に勤務し、通算二十年になる。このほど母校の錦江小学校長を最後に退職。
豊平正弘（福山町）＝昭和十年四月、永原小に着任その後、柁城加治木高校、加治木中の教諭として通算三十六年間勤務、このほど退職。

■…町道の拡張に用地を無償提供町道の整備事業に協力
東　輝（錦江町）
池上盛子（札立）
下小牧千春（〃）
原田　信子（〃）

■…地区公民館長として部落づくり、町づくりに貢献
宮永栄治（下新道）
竹下尚良（毛上）

■…地区体育保健部長として住民の健康づくり、本町のスポーツ活動に貢献
木場政昭（岩原西）
故楠森満男（吉原）

■…町選管委員として十年間、委員会の運営、選挙の公正な管理執行に貢献
増田庄之助（浜村）

■…国民健康保険の運営委員として十年間、町の行政に貢献
有馬正男（蒲生田）

■…昭和二十一年から二十五年間、たばこ耕作組合長として、たばこ農家経営面に貢献
花牟礼市二（西ノ原）

■…部落民の融和で住みよい豊かな部落づくり
浜村自治会（代表＝野間実）

■…町職員として二十年以上勤務、町行政に寄与（退職）
吉薗　清（西反土）
神田貞豊（柳田）
恒吉　晃（田中）
遠矢不三江（内原田）

永年教育功労者として
小浜勲さんに叙勲

小浜勲さん（自宅で）

昭和四十六年春の叙勲に、町内（中汐入）の小浜勲さん（74）が永年教育功労者として勲五等瑞宝章をうけました。

小浜さんは七十歳まで、四十数年間にわたって子弟の教育にあたってこられたかたです。こんどの授賞を機に「教育のために使ってください…」と、このほど県教育センターに十万円を寄贈されています。

大正八年鹿児島師範卒、柁城小に一年就職したあと、東京高等師範に学ぶ。小倉中学で二年勤め、大正十五年鹿児島に帰り二中（甲南高校）の先生となる。昭和二十年加治木高等女学校の校長となったが、二中時代の教育が好ましくなかったとして公職から追放。解除後は加治木高校に五年勤めて、六十歳で停年退職。引続いて鹿児島実践高校に十年間勤務。

病床の小浜さんは「叙勲を聞いて何十年ぶりの教え子たちが、たくさん押しかけてきます。教え子は多いですヨ…。県議員の中に八人もいますヨ。遠方から、わざわざたずねてくれます。ありがたいことですね…」と前置きして

「追放にあい、陰の生活をしました。でも精神だけは常に、しっかりと持ちとおし続けました。だから今日があったのだと自ら慰めています。訪れる教え子たちにこれでみんなに顔向けのできる男になったと話しかけたです。授賞祝いをしたいが、床についているので、なんらかの形で、みなさんにお礼がしたいと考え、教育のために役立ててもらおうと、ごくわずかだが県の教育センターに〃貧者の一燈〃としてお受けくださいと相談しました…」と、話していました。

最後にポッツリ「ひと目、妻に見せたかった…」と、三年前になくなられた奥さんをしのんでいました。

一方、県教育センターでは〃小浜勲図書〃を設けて、先生がたの研修講座や自主研修に利用してもらうこととしています。

叙勲おめでとうございます。

9人が受彰

消防長官表彰の森山さんら

県消防協会総会

3章を受けた森山吉次団長

県消防協会の総会が、このほど鹿児島市にある県消防会館で開かれました。

この席上、昭和四十五年度の表彰が行なわれ、当町からは森山吉次団長ら九人が表彰されました。

□消防長官表彰（伝達）
功労章　森山吉次
永年勤続功労章　大迫豊造
〃　竹内親男

□日本消防協会長表彰（伝達）
勤続賞　森山吉次

□県消防協会総裁表彰
功績章　前田重夫
〃　中原久男
精勤章　向江利治
〃　有川恭雄
〃　松尾　直
〃　松尾利光
勤続章　森山吉次

□下楠園係長も表彰

国土調査事業総会

経済課の下楠園仁係長は六月十四日、東京の農林年金会館で行なわれた経済企画庁の国土調査事業の総会で、永年にわたる本町の担当係として、りっぱな成績をあげたことに対し協会長表彰をうけました。

本町の地籍調査は、上場地区の西別府の一部と木田、反土をのこすだけとなったが、これが完了すれば、各土地の所有者の面積や境界も明確になり、今後の行政にも大いに役立つことになります。

□町に通産大臣表彰

商業統計調査で

さきに行なわれた商業統計調査で、加治木町はりっぱな成績をあげたとして、通産大臣から表彰状がこのほど贈られました。

新委員に委嘱状

町明るく正しい選挙推進協

加治木町明るく正しい選挙推進協議会では、このほど四十六年度の第一回総会をセンターで開き、委員二十人が出席しました。

新しい委員に汰木町選管委員長から「明正選挙の推進にご活躍ください」と委嘱状の交付があり、会則の一部改正や役員の改選などを行ないました。

このあと四十六年度の事業計画や参議院選の臨時啓発について協議し、投票への参加、違反行為の防止などを町民に呼びかけることとしました。役員は次のとおり。

会長　富田武雄
副会長　東　豊子
〃　川原輝雄

明るく正しい選挙を青年団員がパレード

町青年団体連絡協議会は六月二十日、明るく正しい選挙啓発パレードを行ない、棄権防止と違反のない選挙を町民に呼びかけました

集中豪雨にご用心

避難場所や道順を確めておく

梅雨前線が北上するときに、前線上に低気圧が発生したり、また熱帯性低気圧や台風が接近すると局地的な集中豪雨に見舞われることが多くなります。このため、毎年全国の各地で災害が発生し、多くの人命や財産が失われています

とくに本県は地理的にも、風水害などの自然災害を受けやすい環境にあり、昭和四十四年六月、鹿児島市を中心に降り続いた集中豪雨では、多くの死傷者を出すなど大きな被害を生じました。町民ひとりひとりが災害に対して十分な注意をはらい、災害に備えなくてはなりません。

各家庭では、ふだんの心がけや準備が大切です。次に、その注意すべき事項をあげてみましょう。

□心がけと準備

①ラジオ、テレビ、新聞などで気象情報や防災上の注意事項をよく知る。

②住居付近の地形からみて、どのような災害がおこるかをよく知り、安全な避難場所や道順を確かめておく。

③停電に備えて懐中電灯、ローソク、トランジスターラジオ（予備の電池も）などを用意する。

④家族めいめいの氏名票を作っておく（住所、本籍、氏名、生年月日、年齢、血液型などを記入したもので、水にぬれてもかまわないもの）

□災害を予想のとき

①河川の近くに住んでいる人は川の〃水かさ〃に注意する。

②長雨や大雨が続くと地盤がゆるみ、がけくずれの危険があるので、とくにがけ下、がけ上に住んでいる人は注意する。

③避難するときの携行品を非常袋などに入れて準備しておく（着換えの下着、医薬品、貴重品）

④二食程度の食糧、飲料水を準備する。

⑤ロープや帯を用意する（子どもを背負ったり、浸水地帯を避難するときの連絡用）

⑥浸水のおそれのある地域は、家財道具を二階などに移す。

□避難するときの注意

①電気、ガスなどの火の始末と戸締りを確かめる。

②老人や子ども、病人、身体障害者、妊産婦などのいる家庭では早めに避難する。

③家族そろって消防、警察その他防災関係者の指示に従って避難する。

④指示のないときは、まわり道でも、もっとも安全な道順をえらび避難する。

⑤服装は軽快な行動しやすいものとし、持ち物は最少限にとどめ、非常袋などで背負う。

町"国体"対策委だより

剣道部門

選手と高段者のけいこを見るチビッ子剣士たち（尚道館）

町国体対策委員会の剣道部門は主任指導者の馬場忠彦さんを中心に六人の高段者が、加治木中にある尚道館で、国体選手の強化にあたっています。

国体の対象となる選手は、高校一、二年と中学三年が主体で、現在十五人が候補に選ばれており、県下でも優秀な選手として、各方面からマークされている者も多いということです。

「剣道の場合、個人プレーだけでは評価できない。五人一組で対戦するので、五人のチームワークづくりが、まず大切だ…」と、主任の馬場さんは、話しています。

これからは国体に出場するための選手養成、強化をするだけでは意味がない。こんどの鹿児島国体を機会に加治木町の剣道を広めるため、幅の広い層をつくろうというのが剣道部門の真のねらいー。

そこで町内の各地区や職場、学校などに連絡員を置いて、グループ（同好会）づくりをすすめて、ひとりでも多くの町民に、剣道をすすめようとして、そのための態勢づくりを始めつつあります。

日曜、祭日の午前十時半から、尚道館では"未来の剣士"小学生三十人あまりが、けいこ着にハカマをつけて、素振りや基本動作の修業に、いっしょうけんめいです。

剣道部門の幅広い層づくりは、国体選手の強化とともに、早くもその胎動を始めています。

戸籍相談シリーズ

問　長女に「瞳」と命名して出生届をしましたら、役場の戸籍係から使用できないーといわれました。人命に用いる漢字に制限がありますか。

答　従来、わが国の漢字は非常に多く、しかも、その用いかたも相当複雑であったために、教育上または社会生活上、多くの不便がありました。

そこで政府は、国民の生活能率をあげ、文化水準を高めることを目的として、日常使用する漢字の範囲を大幅に制限したのです。

それが昭和二十一年十一月十六日内閣告示第三十二号の「当用漢字表」です。ところが、人名に用いる漢字については、社会慣習や特殊事情もあって、どうしても当用漢字表で定めた漢字だけではまかなえないことから、当用漢字のほかに人名に用いて差し支えないと認められる漢字を「人名用漢字別表」として昭和二十六年五月二十五日内閣告示第一号で告示したのです。

そのほか法務省民事局の先例で認められた漢字が若干ありますがこれらの漢字以外の漢字は人名として使用することはできないのです。「瞳」という漢字も右の漢字表にないので、せっかく命名されても使用することはできません。

お子さんに命名される場合は先ず、これらの漢字表の中にある文字かどうかーを確かめられることが必要です。

もうすぐ夏休み

健康づくりに規則正しい生活を

上旬の"つゆ明け"を過ぎると強い日射しが照りつけ、夏はいよいよ本格的になります。

二十日は小、中学校の終業式、二十一日からは子どもたちが待ちに待った夏休みです。これから二カ月近くも長い休みに入る前に、学校では夏休み中のくらしかたについて、担任の先生がたから、いろいろ注意もあったことでしょうがいちど親しいおかあさん同志で話し合われることもいいでしょう

とかくルーズになりがちな休暇中を健康に過ごすためには、やはりある程度の規律をつくって、正しく守らせるようにしたいものです。

規律というと、ちょっと強く感じますが、リズムと言いかえてもいいわけです。いっぺんリズムを踏みはずして、どうせ休みだからと放っておくと、つぎつぎとはずれて、こんど新学期の始まる時期までに持ち越すようなことになると、前学期の終りごろ持っていた感覚にもどすことができなくなります。

先生がたは、子どもたちの顔色や態度で、夏休みをどう過ごしたかが、わかるというのもウソではありません。

規律、規律といっても、おとうさんおかあさんが無理にこしらえなくて、これはお子さんに自分で時間表を作らせた方がいいのです

お子さんは、自分で作った時間表を守って過ごすように、それを見てやればいいのですが、親もこれに協力して、守りいいようにしてやりましょう。

こどもを水死事故から守ろう

話題あれこれ

準特選児に紀子ちゃん

南日本赤ちゃんコンクール

このほど行なわれた第38回南日本赤ちゃんコンクールに町内（西汐入下）の畑瀬元美さんの長女紀子ちゃん（九か月）が準特選児に選ばれました。

ママの潰子さんに伺うと「初めての子で、育児についてはわからないことばかり、いろいろ気をつかい、よく保健所の育児相談を利用しました。とても入賞なんて、あきらめていましたワ。とってもうれしいです。ありがとうございました…」と大よろこび。

近くパパとママのご両親たちを徳島県と佐賀県から呼んで、紀子ちゃんの入賞祝いをやるんだ…」とパパは目下、大張り切りで仕事にハッスルとか——。

紀子ちゃんおめでとう。

幼児をもつ母親学級

町内五か所で開講

町教育委員会では、幼児教育の振興をはかるため、幼児をもつ母親学級をこのほど開講しました。

六月八日センターホールで開講式を行ない、鹿大教育学部の篠原勝教授の講演「幼児期における心身の発達」を聴講しました。

開設場所は永原小、加治木、錦江、双葉の各幼稚園と小山田保育所の五学級。六月から来年の三月まで学習します。

明正選挙と棄権防止を

パレードや街頭でPR

町明るく正しい選挙推進協議会では、参議院選挙を間近にひかえた六月二十二日、広報車による町内パレードと街頭啓発を行ないました。

街頭ではビラや白バラをひとりひとりに配り「明るく正しい選挙と棄権の防止」を強く町民に呼びかけました。

「大地震発生！」

県総合防災訓練

五月二十八日、当町で大がかりな「県総合防災訓練」が行なわれ多くの町民が参観し、災害時における認識を深めました。

訓練は「大地震が発生。加治木町では家屋の倒壊、火災による焼失、津波による流失、床上浸水、がけくずれなどの災害が発生—交通機関や公共施設などに大被害を生じた——」との想定で開始。

避難や救出、救護、水防、消防、物資輸送などの災害応急対策が迅速、適切に実施され午後一時、訓練統監の金丸知事の講評で訓練を終えました。

■ 七月の行事

みんなで犯罪のない社会を

〃社会を明るくする運動〃が本年も、七月一日から三十一日まで全国いっせいに行なわれます。

この運動は、みんなが力を合わせて犯罪のない明るい社会を築こうーとするもので、ことしは「青少年の非行防止と住民の参加」を重点目標として、運動が推し進められます。

わたくしたちの暮しを暗くするものは貧困、病気、公害、交通事故など、いろいろありますが、犯罪もその一つです。

わたくしたちの家族が犯罪の被害を受けたら、どうでしょうか。身内から犯罪者が出たとしたら、どうでしょうか。腹を立てたり悲しんだり、肩身のせまい思いをしたりするでしょう。生涯の運命を狂わしてしまうことさえ、あるでしょう。犯罪は、わたくしたちの暮しの明暗と深く、かかわりあっています。

犯罪や非行が起きないように、犯罪者や非行少年が出ないように犯罪予防活動を進めましょう。もしも不幸にして犯罪をした人や非行に陥った少年がいたとしたら、その人たちが再び間違いをしないように、お互いが力を合わせて、その立ち直りを助けましょう。

■ みなさまのご協力を ■

○犯罪や非行が絶えないのは、なぜなのか

○青少年の健全な生長をはばむものは何か

○わたくしたちは何をどうすればよいのか

真剣に自分の問題として話し合いましょう。そして犯罪のない明るい社会づくりに、力を出し合いましょう。

□ 献血で人助け □

愛の血液助け合い運動

「愛の血液、助け合い運動」は医療に必要とする血液を、献血によって確保しようという趣旨のもとに、七月中を実施期間としています。

近代医学のうちでも外科手術はめざましい進歩をとげており、これまで過去において不可能とされた疾患や外傷から生命を守り、機能を正常にもどすことを可能にしましたが、これには輸血が大きな力となっています。

現在、輸血に使用される血液の大部分は、保存血液といわれるものです。

保存血液は血液銀行で採血され製造されています。供血者から採血した血液に薬品を加え、定められた試験検査を行ない、基準に合うように調整された血液が〃保存血液〃といわれ、摂氏四～六度の温度で保存、管理されています。

採血後二十一日間の有効期限があり、いつでも病院からの要請に応じられるよう、血液型別に分けて供給されています。

最近では、献血運動に対する理解が深まるにつれ、保存血液の約九〇パーセントが献血によって確保されています。だが、毎年夏になると献血者が少ないため、保存血液が不足がちとなることから、これを解決するため、とくに七月を献血運動月間としたものです。

輸血を必要とする病める人びとのために、健康な人たちが進んで献血し、お互いに助け合う姿こそ人間社会の美しい、もっとも自然の姿といえましょう。

この運動を機会に献血の尊さを認識するとともに〃愛の献血で人助け〃をしましょう。

事業主にも退職金

小規模企業共済制度

事業をやめたり(死亡も含む)退職したときの事業主の生活安定をはかるためにつくられた、ただ、ひとつの国の共済制度が「小規模企業共済」です。

この制度は、各事業主が中小企業退職金共済事業団と契約を結び従業員のための退職金として毎月掛金をかけ、従業員が退職したとき事業団が直接従業員に退職金を支払うものです。

また、この共済制度は、掛金の全額無税や従業員のための住宅や食堂などの福利厚生施設を作る場合は、資金の融資が受けられるなど、有利な取扱いがなされています。金融機関や商工会などで、おたずねください。

火災保険は

「県火災共済へ」

鹿児島県火災共済協同組合は県内の商工業者の皆さんを火災の損害から守るため、中小企業等協同組合法にもとづいて設立された県下唯一の火災共済専門組合です。

(安い掛金)県火災共済は、営利が目的でないので、掛金が非常に安くなります。

(早い支払い)万一の場合、支払いが早いので、すぐ復興に役立ちます。

(県の保障)県の損失補償がありますので、絶対安全です。

集まった金は、中小企業の設備資金や運転資金の融資源となります。くわしいことは商工会でおたずねください。

家庭内の問題で

お困りのかたへ

離婚、離縁、子の認知、慰謝料、相続、扶養、財産分与など家庭内の問題でお困りのかたはありませんか。

家庭裁判所では、毎日(日曜日を除く)これらについて申立て手続きなどについて、無料で相談に応じています。

相談なさるときは、鹿児島家庭裁判所加治木支部の窓口においでください。

一日一円であなたを守る

町村交通災害共済へ

県下の交通事故は、ますますふえています。いつ、どこで、だれが事故にあうか、わかりません。

そのときの用心に、おとなもこどもも、みんなそろって交通災害共済に加入しましょう。

○掛金　一人三百六十円

○住民課の窓口で受付けています。

加治木名物 “くも合戦”

出場二百五十匹

諏訪さん・竹之内さん優勝

ヒモシの上のくもが集まる

全国でも珍しい恒例の加治木名物〝くも合戦〟は、さる六月六日町福祉センターで行なわれ、おとなの部少年の部あわせて二百五十六匹のくもが出場しました

大山綱男商工会長のくも合戦の由来について説明があったあと、試合前のアトラクションとして優良ぐも（ミス・コンテスト）の審査が、NHKやMBCなどの各社ニュースカメラのライトを浴びて行なわれ審査の結果、一位に入部力（港町）二位に諏訪国義（吉原）三位に竹之内信二（端山）さんらの〝くも〟が優良くもに選ばれました。

注目のくも合戦は、おとなと少年の部に分けて行なわれ、細くけずった竹（ひもし）の上で白い糸を繰り出して、からみ合うくもに「キバレョ」「ソイジャガ」とやんやの声援がとび、日曜日のセンターに大きくこだましていました

ことしは、これまでにない盛況で、観衆も大ぜいつめかけ、郷土の珍行事に目を楽しませていました。観客の中には遠く山口県や尼崎市から今朝の飛行機で来た、という八ミリマニアたち「初めて見ました。来たかいがありましたネスバラシイ…」と、汗をふきふきカメラに合戦シーンをおさめていました。

おとなの部で二年ぶりに優勝した諏訪さんは、根っからのくもマニア。昨年は惜しくも準優勝、ことしこそは－と日南や志布志方面に十三回も、くもを求めて山野を駆け回ったという。その数がなんと七百匹。しめきった座敷の中にくもを飼い、部屋中くもの巣だらけ、部屋の出入りも腰を曲げて歩くとかでも二、三百匹はよそに逃げてしまうそうです。

くもと生活し、えさの加減や動作で体調を知り、当日に備えるということです。くものいる場所は極秘中の極秘で。むこさんにも詳しいありかは絶対教えない－」と諏訪さんは早くも来年にかけて笑っていました。

当日の成績は、次のとおりです

□少年の部

優　勝　竹之内信二
準優勝　是枝義郎
三位　西　敏明
四位　宮路博和
五位　原口尚憲

□おとなの部

優　勝　諏訪国義
準優勝　川原　弘
三位　入部　力
四位　川原　操
五位　入部　貢

加治木町での教員生活三十六年にサヨウナラ

豊平先生が退職

▽…加治木中の豊平先生といえば、あの小柄なそれでいて体駆の張った、目のきいた先生をすぐ思い出すものです。町内のオセから中学生まで、なじみ深い加治木の人気男でもありました。加中での生徒間では〝ラッパさん〟の愛称（アダ名）で通用していたとか…なるほどそのものズバリ。

▽…総合表彰式のあと、いろいろと思い出ばなしを伺うと、先ず開口一番「オイガネェー」に始まり「昭和十年に二十三のとき永原小学校へ赴任した。当時の初任給は四十二円ジャッタョ」

▽…ながかった三十六年間の加治木での教員生活で一番印象に残ることは――「終戦と同時に柁城に帰り、軍服姿で小山田の旧兵舎を運んで、校舎建築に毎日のように働いたこと…県庁まで釘の配給をうけに、なんともカゴッマずい行たョ。け忘れもせんネ…」

▽…最後に「永年、加治木にあり、こうしていても学校生活を去ったようではない…」こうして通称〝ラッパさん〟こと、豊平先生は加治木に三十六年間のいろいろの話題や思い出を残して、郷里の福山町へ帰られました。

……

加治木には永年お世話になりました……」表彰式場で

ちゃぶんばなし

今月の納税　固定資産税（第二期分）

夏山の手入れ
いまが最適期です

気温があがり、温度が高くなってきますと、草や木は活動をはじめ、ぐんぐん伸びてきますが、そうした中でお互いに競走をはじめ弱いものは滅び、強いものだけが残るという自然現象がおこります。

こうした環境のところに植えられた苗木は、当然じゃまもの扱いにされ、そのまま放っておくと枯死してしまいます。これを一人前に育てるためには人間がいろいろと世話してくれなければなりません。これを保育作業といいます。

保育作業のなかには下刈り、除伐、技打ち、間伐などの作業があります。とくに下刈り作業は重要な作業であり、本県のように温暖多雨という環境のもとでは、雑草木の成長が旺盛ですから、木を植えてから二～三年生までは年二回その後は年一回の刈払いをする必要があります。

作業の時期

作業の時期は、造林木の成長の最も盛んな時期、すなわち六月から八月ごろが最適です。年二回刈りの場合は六月と九月、年一回刈りの場合は七月から八月が適当です。

また最近は労働力の不足や「短伐期育成」という意味で、林地肥培熱が盛んになってきましたが、これは造林地に施肥して一年でも早く下刈り期間を短縮することと伐採が早めにできるという利点があります。

そこで県では、昭和三十七年から施肥に対する補助制度をとり、この奨励につとめています。施肥の時期は木の成長期で、しかも下刈り後が最適です。

〃〃〃〃〃〃
香典返しを寄付
町社会福祉協議会へ

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

金額	ご遺族	故人
三千円	吉原 徳永洋子（母カネミツ）	
三千円	諏訪町 石神 砂（夫三郎）	
三千円	菖蒲谷 向江重義（父市兵衛）	
三千円	毛上 竹廻間 勝（父政光）	
一万円	新道 今田茂次（母ヨシ）	
三千円	隈原 南 武雄（三男俊治）	
五千円	隈原 堂森敬二（三男勇）	
三千円	反土黒川 上床米吉（四男勇）	

▽六月二十一日までの、ご寄付を掲載しました。

悪質業者にご用心
電話の申込みはご自分で……

加治木電報電話局では、みなさんに次のことを注意するよう、呼びかけています。

電話の申込みは局の窓口で無料で受け付けており、手続きも簡単です。最近「早くつく」とか「安くつける」といって、みなさんにかわって手続きを行ない、不当な暴利を得ている悪質な者がいます。

手続きを他人まかせにして、印鑑を不用意に預けたり、電信電話債券の代金払込みを電話業者などにまかせると、思わぬ損をすることがあります。ご注意ください。

随想 ㉚
沖縄復帰に思う
曽木隆輝

沖縄返還の目途がついたことはうれしい。純粋な姿でないことは遺感だが、私は評論する立場でないので　ただ沖縄の人たちを暖かく迎えたいことを念願している。

日本がしかけた戦争で負けて親である日本がその娘を無理にアメリカへやって、自分はいわばその身のしろ金で生き長らえ栄えてきたともいえるーがその娘は二十六年間、親もとへ帰りたいと泣いて過ごし、やっとその悲願が達せられることになったわけだ。

炭坑ぶしの文句に「…もとの娘の十八に返してくれたら別れましょう…」というのがある。好きで沖縄という娘がアメリカという亭主の所へ走ったのなら、もとの十八の娘にもどさにゃだめというのに馬鹿をいうなーともいえるが、親の一存で犠牲になった沖縄ゆえもどってくるこの娘のため、親はすべてをかけて迎えねばなるまい。

この間から沖縄のコザ市はじめあちこちの市町村の当局、議会や職員のかたがたが、私たちのところに復帰後の行政の勉強にこられる。私はその真剣さに敬意を表するのだが、これは大へんなことだと同情を禁じ得ない。税制にしろ農政にしろ、土地問題にしてもすべてといってよいほど法律も、県市町村の条例が本土とは違っているし、沖縄にはないものもある。

復帰と同時にこれらの法律を適用させ、また新しい条例などをつくり、これを公布することは並たいていのことではあるまい。またこれを受ける住民のとまどいも、ひとかたならぬものがあろう。

私は研修にこられた人たちを大いに励ますと同時に、隣県人としてできるだけ応援すべきことであり、鹿児島県庁や大きな市あたりから職員の派遣がたでも、おたがい考うべきではないかとの話しもしておいた。

沖縄は文化的にも歴史的にも、本県とのつながりは深い。大陸や南方文化の中継地でもあったし、また経済的な関係も浅からぬものがあった。独立国的な形をとつていた時代もあった。

島津義弘公時代の前後から加治木との縁もあり、例の文之和尚の進言によると思われる琉球王国との交流もあった。また明治になってからも、加治木で盛んだった鋳物（いもの）など、大島方面とともによいお得意さんでもあった。

沖縄の復帰を目前にして、私たちは人と物の交流が容易になることも考え、加治木港の早期整備を空港のそれらと呼応して当地方における農業や商工業関係の人や物資のことも、いまから考える要があると痛感する。